

重要な構成要素「^{あさのや}浅野屋」

建築：大正期以前

参道の景観を構成する要素

「浅野屋」は、葛飾柴又の伝統的な名物「^{せんべい}煎餅」を製造販売する木造２階建の店舗です。

開け放した１階軒底下で手焼きで煎餅を製造し、店頭販売しています。間口約２．５間（約４．５ｍ）の小規模な店構えで、平入^{ひら}り_(注)となっています。

建築時期は大正９年（１９２０）と古く、看板以外に目立った改修も行われておらず、大変貴重な建築物です。

店先では対面での販売が行われ、軒庇上には看板を置いています。参道側の外観は、ファサードが連続した参道において、屋根、^{ひさし}庇などのまちなみの表情を作る要素によって賑わいを演出しています。

（注）建物の大棟に平行な面、すなわち平に出入口を設ける建築形式。また、平を正面に向けるもの。（広辞苑第七版）